

2016年4月18日

あおぞら投信株式会社

## 『債券の キャリー収益 頼り甲斐

## 世のロールダウン 外に探して』

米国債(5年)利回りが、史上最低の0.54%記録したのは2012年7月のことです。この時期は2008年の金融危機後にFRB(米連邦準備制度理事会)がQE1(量的緩和第一弾)、2010年にQE2(量的緩和第二弾)と金融緩和を進めており、さらにQE3(量的緩和第三弾)への期待が強まっている時でした。実際に2012年9月にはQE3が実施され、米国債は低利回りでの推移を続けていました。

翌年(2013年)5月にバーナンキ前FRB議長の『tapering(緩和逡減)の可能性あり』という発言を受けて金利は急上昇し、米国債(5年)利回りは1.8%台をつけました。ここから市場参加者はゼロ金利解除を企図するFRBとの対話を続けながら、1.1%~1.8%のレンジ内で推移する米国債(5年)への投資を続けるべきか、さらなる利上げを見越して投資を止めるべきかと悩んでいました。ではこの間の勝者は誰だったのでしょうか? 昨年を思い出しても、いつ利上げされるのか、何回利上げがあるのか、という不安と戦っている投資家が多くいました。振り返れば、このレンジの上限に近づいた時に少しずつでも継続的に購入し、保有をし続けた投資家が結果を得たのです。改めて考えることは、債券利回りを決めるのは中央銀行ではないということです。すなわち先進国の低成長デフインフレ時代に、債券に対する需給についての大きな図式を見るべきなのです。今年1月マイナス金利となった円金利が目の前に展開される中、継続を力にすることが投資にとってもっとも重要なことなのです。

日本と米国の国債(5年)利回りの推移(1996年12月末~2016年4月13日)



出所：財務省、米財務省

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号：あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第2771号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス：<http://www.aozora-im.co.jp/>